

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標
進んで学び 高め合う子 ~元気・勇気・根気~
くみらいをつくる ほんきのまなび>
【元気】運動に親しみ、自分の健康のために行動する力を育みます。
【勇気】誰もが安心して過ごすことができる自分づくり関係づくり仲間づくりができる力を育みます。
【根気】身近な人やもの、ことに関わる中で課題を見だし、解決に向けて自ら判断し、表現しながら解決を図る学習を充実させることで、確かな学力と学ぶ楽しさを育みます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力
<持続可能な社会づくりを担う力>
地域での体験的な活動の充実による Act Locally
多様な学びの場での多面的・多角的な Think Globally
具体化した資質・能力
低学年:多様性を尊重する態度、ものを大切にできる態度、進んで参加する態度、コミュニケーションを行う力
中学年:互いに連携・協力する態度、つながりやかかわりを大切にできる態度、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度、多面的・総合的に考える力
高学年:責任と義務を自覚し自ら進んで行動する態度、公正・公平に努める態度、批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力

中期取組目標
UNESCO SCHOOLとして、Think Globallyに向けて教育活動をESD(SDGsで共に未来を創る)を結び付け、Act Locally 充実のために地域との関わりを見直しながら、子ども一人ひとりの「生きる力」「持続可能な社会づくりを担う」を育む。
【元気】運動に親しみ、自分の健康のために行動する力を育みます。
【勇気】誰もが安心して過ごすことができる自分づくり関係づくり仲間づくりができる力を育みます。
【根気】身近な人やもの、ことに関わる中で課題を見だし、解決に向けて自ら判断し、表現しながら解決を図る学習を充実させることで、確かな学力と学ぶ楽しさを育みます。

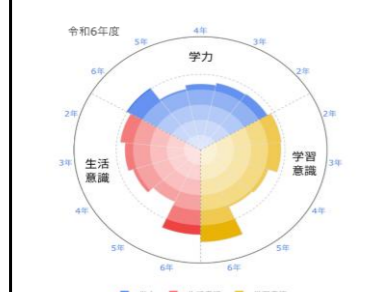
学力向上アクションプラン

重点取組分野 確かな学力
具体的取組 ①学習環境の整備と、教師の授業力向上を図り、児童の学びに向かう意欲を高める②学習評価を適切に行い、改善につなげられるよう、学習の目当て・内容・方法等を吟味し、学びの質の向上を図る③個別最適な学びを充実させ、学力の定着を図る。

学力向上に関わる本校の状況
(1)学力に関わる児童の実態
横浜市の実態と同等、あるいは下回る傾向がある。学年間、個人間で学力差があり、一斉指導の質の向上と個に応じた指導の充実を図る必要がある。学習意識は、良好な様子が見られる一方、経年変化を見ると低下傾向にあることが懸念される。児童にとって「わかる」授業を行うことで、学習意識も高めていく必要がある。
(2)これまでの学校の取組
○児童の思考力を高めることを目指し、授業の中でシンキングツールを使用することに取り組んだ。低学年では、ツールになれるなど、系統的に指導することで、高学年では、ツールを活用して思考を広げたり深めたりする姿が見られた。
○児童が見通しをもって学習に取り組めるよう「学習のめあて」を位置付けたり、振り返りの指導を丁寧に行ったりしているところである。
○児童が自分の思いや考えを表現する力を高めるために、重点研究を通して表現力の育成に向けた指導の在り方を追究している。

今年度の目標
持続可能な未来をつくる 本気の学び
~表現できる子どもを育成するための 主体的な学びの実現~

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
・年間指導計画やESDカレンダーをもとに学習環境を整え、学びのつながりをもたせるようにする。
・教材や課題との出合わせ方を工夫し、児童自らが学習計画や学習問題を生み出し、児童にとつて必然性のある学びを展開できるようにする。
・児童の思いに基づいた学習のめあてを毎時間位置付け、それに応じて解決方法を児童が選択したり、決定したりしながら解決を図るような授業を行う。
・振り返りの仕方(何を書くか、どの程度書くかなど)を丁寧に指導し、めあてに沿った振り返りができるようにする。
・本校で重視する「表現力」を「対話力」ととらえ、単元における児童にとって必然性のある対話場面を検討し、必要な資質・能力を洗い出し、指導を積み重ねる。
・高学年では教科分担当をとり、質の高い授業を実施する。
・3年生算数科の学習ではTで指導を行い、学力の定着を図る。
下半期
・児童の「主体性」を大切に授業づくりを推進する。発達段階に応じて、学習の経験を振り返りながら解決方法を選んだり、児童が自ら学習計画を立てたりする時間を位置付け、児童の思いに沿った課題解決的な学習を行う。
・振り返りを充実させる。次の時間に取り組みたいことを明らかにすることで、児童が見通しをもって学習に臨めるようにする。そのためにノートやタブレットの機能を十分活用できるようにする。
・表現力=対話力の向上を目指し、対話に必要な語彙を広げるための環境整備、対話の条件(誰と話すのか、何について話すのかなど)を児童自ら選択したりできるように授業を目指し、国語科の重点研究を進めていく。



豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野 豊かな心
具体的取組 ①日常の道徳教育と道徳科との関連を図り、学校全体として、他者との違いや多様な考えを認め合う態度を育成する。②誰もが気持ちよく安心して生活できるように、福祉委員会や生活委員会が中心となって挨拶や温かい言葉掛け、人権週間などに全校で取り組む。③異学年交流の目的を明確にし、継続的に活動することで、発達段階に応じた思いやりの心を育成する。

豊かな心に関わる本校の状況
①他者との違いや多様な考えを認め合う態度
・道徳科の学習を充実させることで、多様な考えに触れる機会を多く設けることができるようになってきている。
・考えや意見を交流したり、受け入れたり、それをもとに自分の考えを深化・拡充させていく経験が十分とは言えない。
・Y-Pアセスメントを実施し、児童の見取りに活用することができている。
・学級風土の分析や、必要な横浜プログラムの活用ができていない。
②他者を思いやる具体的な言動(挨拶や温かい言葉かけ)
・ふわふわ言葉を大切にしている意識は育ってきているが、使う言葉や場面、相手が限定的であったり、言葉だけになっていることもある。
・挨拶運動など、委員会主体の活動を実施している。
・自ら進んで気持ちのよい挨拶をすることができる児童は少数である。
③友達との関わりや異学年交流
・いじめ案件は起きていない。
・些細なことから喧嘩につながることもある。
・ペア交流では、集会やウォークラリーに取り組んでいる。
・学年によって、交流集会等を開いている。
・下級生を思いやる言動や、上級生を慕う姿が見られる。
④安心して学びの支援や指導、場の提供について
・一般級、個別支援学級ともに、学びにくい子どもや、教室に入りにくい子どもがいる。
・いろいろな特性の子供がいるため、学び方や理解の仕方が様々である。

今年度の目標
互いに認め合い、誰もが安心して過ごせる自分づくり、関係づくり

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
・Y-Pアセスメントと横浜プログラムの年間計画を立て、アセスメントだけでなく、プログラム実践につなげていく。
・年間2回のいじめ未然防止アンケートの実施や必要に応じて個別の教育相談、保護者との連携、教職員への共通理解等を行う。
・道徳科と日常の道徳教育との関連を図り指導することで、違いを認め、お互いを理解し合うことの大切さやよさに気付くようにする。自分のことを安心して話せる雰囲気づくりをする。
・福祉委員会、生活委員会を中心に、挨拶や温かい言葉かけを広める取組を行う。
・特別支援教室(ひまわり)では、個に応じた学習方法を探り、担任と支援教室担当が教材等について相談して準備する。パーティションで仕切るなど環境調整に努める。
・個別支援学級では、知的、自・情級ともクラスに隔たりなしに、全体で子供たちを見守る。
・ペア交流では、どのグループも望ましいかかわりができるように児童についての共通理解を図り、支援していく。
・国際理解教室や、外国語学習、国際委員会の活動を通して様々な国について知る機会を設ける。
・日本語に課題がある児童のサポートを行う。
下半期
・Y-Pアセスメントと横浜プログラムの年間計画を立て、アセスメントだけでなく、プログラム実践につなげていく。
・年間2回のいじめ未然防止アンケートの実施や必要に応じて個別の教育相談、保護者との連携、教職員への共通理解等を行う。
・道徳科と日常の道徳教育との関連を図り、機会を捉えて指導することで、違いを認め、お互いを理解し合うことの大切さやよさに気付くようにする。特に展開後段の計画や振り返りの仕方を工夫し、他者の考えや多様な価値観に触れることができるようにする。
・福祉委員会、生活委員会を中心に、挨拶運動や人権週間の取組などを全校で行っていく。
・特別支援教室(ひまわり)では、個に応じた学習方法を探り、担任と支援教室担当が教材等について相談して準備する。パーティションで仕切るなど環境調整に努める。
・個別支援学級では、知的、自・情級ともクラスに隔たりなしに、全体で子供たちを見守る。
・ペア交流では児童が主体的に関わる活動内容を工夫するとともに、他学年との交流の機会を増やしていく。
・国際理解教室や、外国語学習、国際委員会の活動を通して様々な国について知る機会を設ける。
・日本語に課題がある児童のサポートを行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野 健やかな体
具体的取組 ①児童一人ひとりが運動に主体的に取り組み、心身の健康や他者と協力して楽しむことを実感できるように、スポーツフェスティバルや運動委員会を主体とした年3回の長縄集会を実施する。②運動に親しみとともに、継続的に体を動かすことで自己の体力向上につながるよう、運動委員会の取組や体育学習の充実を図る。③「健康な骨づくり」をテーマにした健康課題について主体的に考え、行動に移すことができるよう、学校保健委員会を中心とした取組の充実を図る。

健やかな体に関わる本校の状況
・令和6年度の新たな体力テストの結果からは、全体的に上体起こしの結果が市の平均よりも高く、筋持久力があることが分かった。一方で、20mシャトルランが新2年生から新6年生まですべての学年で市の平均よりも下回っている結果となっていた。このことから、全身持久力を高める運動経験が少ないことが考えられる。
・生活実態調査の結果からは、本校児童全体の約6割が、放課後にスポーツクラブ等の活動に取り組んでいるが、市平均よりも少ない。また、1日のテレビやパソコン、携帯電話、ゲーム機などの視聴時間については、1時間以上視聴している児童の割合が市平均よりも多いことが分かった。
・体育科基本調査からは、体育学習への意欲が高いことが分かった。そして、高学年につれて、友達との学び合いに意欲が高まることや、目標に向けて繰り返し運動に取り組むよさに気付いていることも読み取れた。一方で、目標やめあてに向かって計画的に学習することのよさにはあまり気づけていないようであった。
・目で見えてわかるようなスモールステップの目標があると、「やりたい!」できるようになりたいという思いが高まる。
・休み時間は、できるときは毎回外で遊ぶ子どもと、ほとんど外に出ない子どもがはっきり分かれている。
・自分の身体を思い通りに動かしたり、危険を予測したりすることがうまくいわず、けがをする児童が多い。
・食や健康に対する意識は低くないが、自ら必要性を感じ、自分の健康のために生活や行動を改善することは少ない。一方で、総合的な学習の時間では「食」をテーマに取り組んだ学級は意識が高く、活動の一環として全校に食品ロスについて発信したことから少しずつ学校全体で、「一人ひとりが少しでも食べるようにする。」と考えられるようになってきた。
・なぜ必要か、大切かなど意味を理解すると積極的に取り組むことができる

今年度の目標
運動に親しみ、目標に向かって主体的かつ継続的に取り組める児童の育成
自分の健康に関心を持ち、自らの健康のために行動する力の育成

目標を実現するための具体的行動プラン
上半期
・体育科学習では、「今自分ができていること」と「できるようにになりたいこと」の間に技能段階に合わせた活動を示し、目標を達成するまでスモールステップで学習する見通しをもてるような学習カードを作成する。そして、児童がより意欲的に体を動かすためには「できた」を味わわせることが重要であるため、必要に応じて「体の使い方(運動の仕方)」を教師が指導していくようにする(教師の示範や上手にできる児童による手本等)。
・児童が主体的に運動に取り組む、調整力や持久力を高めるための活動の一環として、運動委員会の児童が中心となって長縄集会を実施する。また、同様に休み時間には継続的に長縄の練習会を開催する。実施に際して、全校にその目的や内容を提案・共有し、見通しをもって意図的・計画的に実施する。それらを運動委員会が執り行う。
・休み時間などで、外で遊べる際には、学級で外遊びの計画を立てるなど、友達と一緒に体を動かす楽しさや心地よさを味わえるような機会をつくるようにする。
・学校保健委員会において、「健康な骨づくり」をテーマに設定し、自分の体や健康について関心を持ち、よりよい生活ができるように全校で取り組む。
・食に関する関心を高め、児童が自ら意欲をもって取り組めるよう、総合的な学習の時間や保健学習と関連付けた食育を行う。
・学級活動等で動画などを利用して食育指導を進めていく。
下半期
・体育科学習では、自己の課題を見つけて主体的に活動に取り組めるようにする。そのために、個々に応じた場の設定や取り組み方を教師が提示し、児童が自己選択したり新しく活動の仕方を考えたりできるようにする。
・長縄の取組について、実態を確かめながら取り組み方の見直しを図っていく。年間を通して、児童が意欲的に取り組めるように、前期から取り組む運動委員会を中心とした長縄の練習会を定期的に実施して、より多くの児童が取り組めるようにしていく。
・休み時間には、引き続き学級で外遊びの計画を立てることのほか、運動委員会による長縄の取組を進めていながら、体を動かすことを習慣付けたいけるようにする。
・学校保健委員会での話し合いを基に、各学級で取り組んでいることを全校で共有していく。そこから自己の「健康な骨づくり」に対して目を向け、自分の体や健康にに対してより高く関心をもたせるようにする。
・栄養士や外部の方々とのかかわりを意図的・計画的にもつようにし、総合学習や保健学習と関連付けた食育のより一層の充実を図り、児童が自ら意欲をもって取り組んでいけるようにする。